

● 東京モーターショー(商用車)トピックス

TOKYO MOTOR SHOW 2000
COMMERCIAL VEHICLES

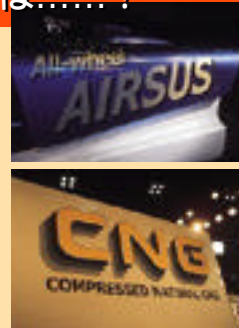
意外とおもしろかった!!



これからのトラック・バスのトレンドは.....?

乗用車よりも、現実的なテクノロジーをする商用車がこれらの技術を採用したということは、すでに十分な実用性・耐久性を持っているという証明といえるだろう。

ショーで各社がトラック・バスの新技術としてアピールしていたのが、総輪軸エアサスと代替燃料の2つだ。エアサスはデリケートな積荷を運ぶトラックや乗客を乗せるバスでは主に後軸に採用されていたものだが、これからはドライバーが快適に運転できるような、前軸にも採用されるケースが増えるという。これはドライバーが運転に集中でき、安全運転につなげていく、というものだ。また代替燃料は乗用車でも研究が盛んだが、ディーゼルエンジンが主流である商用車では、事態はさらに深刻だ。乗用車ショーでは燃料電池車やハイブリッド車に挑戦する企業が多かったが、商用車の世界ではより実用的なCNGなど天然ガスを用いたモデルが多かった。



日本で開催される初めての国際商用車ショーとなった第34回東京モーターショー。出展するメーカーや団体は、どんな人が何を見にくるのかもわからないという状態。いっぽう来場者もどんなノリでどんなモノが展示され、何が目玉なのかわからない、という中で幕を開けた。ところがいざ始まってみると、これがナカナカ見ごたえのある内容だったのだ。お客さんの反応もまずまず、来場者は予想を大きく上回り、ショーは大成功を収めた。

会場では普段は間近に見ることができない大型トラックや輸入トラック、最新型のバスなどに触れ、運転席や客席に座り、クルマの下をのぞき込むといった、乗用車ショーではできない楽しみ方でショーを堪能していた。

それではショー会場にプレイバック!!

トヨタ
ダイハツ
日野
ブース

東ホールのほとんどを占めるのがこのトヨタ・グループ、つまりトヨタ、ダイハツ、日野のブースだ。広い面積にちりばめられた展示車両と、ほとんどステジが存在しないブース作りで、ブース内を自由に歩いて自由に触るといった雰囲気づくりになっている。それでもブースの中心には展示ステジが設けられ、しっかりと見せ場はついていた。

トヨタもITマイブーム?



グループの企業、トヨタ、ダイハツ、日野がそれぞれ得意の分野でIT技術の活用方法を展示していた。特に居眠り警報装置や車線逸脱防止支援システムなど、最新のIT技術を満載した日野のASV-2や、GPSを搭載し配送車の集中管理を可能にしたハイゼットITカーゴなどが注目を集めていた。このトヨタブースだけでなく、ショー会場はITのオンパレード。猫も杓子もITだった。まったく、森首相じゃないんだから.....。



普段のモーターショーなら、これでもかかっていうくらいコンセプトカーを展示するホンダも、さすがに商用車ショーじゃ出る幕ないかな。なんて思ってたが、福祉車両に発電機、船外機、いろいろあるんですね。



マツダブース

トヨタとは対照的に、立体的なブース作りに励んでいたのはマツダブース。日野三菱いすゞのような巨大トラックを持たず、かといって軽トラも少ないマツダは、商用車はちょっと苦手か。それでも発表されたばかりのトリビュートを展示したり、モーターショー1週間前に発表されたタイタンダッシュの御披露もあり、それに華やかだった。

ハンサムは得だね!!

ショーのプレスデーには、各社が報道陣を集め会社の近況を報告したり、新しいモデルを発表するブリーフィングというものを行うが、このマツダのブリーフィングは一味違った。ピアース・プロスナンバリの男前社長、マーク・フィールズが派手なジェスチャーでステージを歩き回って演説。その後のタイタンダッシュの説明では、自らモデルとなって乗り降りのしやすさや室内の広さをアピールしていた。モテるんだろうなあ...関係ないけど。



